

とりもと
鳥本理一郎

昭和 61 年 1986 年卒業 産業社会学部 A 岩手県コース

昨年は、福島県東北応援ツアーに参加させて頂き、震災の状況を勉強すると共に、福島県の校友の方と交流を深め有意義な時間を過ごす事が出来ました。

今年も是非参加したいと思い応募致しました。昨年の福島県は原発の影響がまだ深く、福島県に比べると復興がかなり進んでいると感じました。

釜石駅～盛駅までの『震災学習列車』の中では、釜石の町を始め海岸沿いの素晴らしい景色と共に、防波堤やかさ上げの工事現場を目の前で見て、三陸鉄道の方から列車の中で話を聞くと本当に恐ろしい津波が押し寄せてくる当時の様子が想像出来ました。やはり日頃から防災の意識を持って、震災時にどのような行動をするべきかを予め決めておく大切さを学びました。短い時間で判断をして生死が分かれてしまうという、災害時の大変さを痛感しました。

陸前高田市ではほとんどの町が壊滅するという悲惨な状況に心が痛みました。

ホテルでは、4名の校友の方の被災体験をじかに聞くことが出来、有意義な勉強会となりました。その中で私と同郷の福岡出身の平野さんが立命館大学卒業後復興支援のために、家族の反対を押し切り、大船渡市市役所に就職したという事に強い感銘を覚えました。遠く離れた土地で何か役に立ちたいという熱意が伝わりました。私にはとてもまねをする事は出来ないことです。

また、岩手県校友会の方の心あたったかい配慮で、宴会も和気藹々と楽しく二次会もお部屋に押しかけて懇親を深めさせて頂きました。

2日目は、奇跡の一本松とタビック45を見学して、ほとんどそのままになっている周りの様子から、津波のすさまじさをまざまざと見せ付けられました。

福岡の出身ですので、一昨年までは遠くてなかなか訪問することが出来ず、報道で知るのみでそこまで身近に感じていませんでしたが、昨年、今年と2回参加させて頂き、東北の復興に少しでも役に立ちたいという思いを強く持つようになりました。日常の生活の中で支援活動に協力したり、facebookなどで発信していきたいと思います。

菊池会長を始め校友会の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。これを機会に少しでも東日本大震災復興に努めると共に、校友会の皆様と親交を深めて参りたいと思います。本当にありがとうございました。